

※バタフライエフェクト…小さな変化が大きな影響を及ぼす現象

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。



二つのグローバル

■一つ目「国際教養大学」

国際教養大学の前学長・鈴木典比古先生とはいろいろな場面で対話をさせていただき、たくさんのお話を聞かせていただきました。秋田市雄和に位置する国際教養大学は、特徴ある大学教育にて開学からわずか数年で国内有数の難関大学になりました。その卒業生は県内のみならず国内外で活躍し、卒業生のみならずいづれもが「いい意味で一言をもち、さまざまな場面や分野でバタフライエフェクトを引き起こしています」。

特徴ある教育としてよく知られているのは「すべての授業が英語で行われる」や「提携する海外の大学に必ず1年間留学する」などですが、いちばんの特徴は間違いなく「リベラルアーツ教育」だと思います。先生の言葉を借りてリベラルアーツ教育とは何かについて一つだけ言うとするならば、それは「自分の自分による自分のための学びであり、それは個を確立させること」に他なりません。

■新渡戸稲造の「武士道」

学長当時、鈴木先生は学生に対して留学期間中にある本を必ず読むように勧めていました。それは新渡戸稲造の「武士道」です。旧五千円札の顔で知られる新渡戸稲造は、国際連盟の事務次長として世界の舞台で活躍した人でした。キリスト教徒の新渡戸稲造は、国際連盟で仕事をしていた中で日本人としてのアイデンティティを明確にしなければならぬと強く感じ、その背景に侘び寂びの精神、

■二つ目「TDK」

おもてなし、みつともない、もったいないといった恥の文化の精神があることを「武士道」という本にまとめあげました。鈴木前学長は、グローバル人材について「生まれ育った国や地域に根差し、そこで培った文化や言語、精神性に立脚したアイデンティティを持つことが必要です。グローバル人材は根なし草人材ではないのです」と述べています。ここに国際教養大学が目指すリベラルアーツ教育の意図を知ることができると思います。

昨年10月に開催された斎藤憲三先生・山崎貞一先生を偲ぶ会において、TDK執行役員・生嶋太郎氏による講演「TDKポートフォリオ経営」を聞きました。その内容は簡単に「TDKが時の流れの中でどのように事業の中身を変えながら発展してきたか」を表したものです。「カセットテープのTDK」の時代から、その後のカセットテープ時代の終焉とともに、パソコン用HDD、スマホ向け高周波部品、そして現在の主力事業である2次電池へと、時代のニーズにあわせて事業を入れ替えながらTDKは大きく発展してきました。講演内容はとてもわかりやすく、いまのTDKのおおよそを理解することができました。

■創立90周年を迎えるTDK

今年で創立90周年を迎えるTDKは、直近の四半世紀で年間売上高2兆円を超えるグローバル企業に成長しました。正直、私たちが理解するにはスケールが大

きすぎる感があります。

一方で、経営陣の方々との日頃の意見交換の中から感じられることに、以前にも増してTDKは地域との共存を重要視していることがあげられます。その背景には、もちろん地元に対する敬意の表れもあるかとは思いますが、それ以上に私は激動のグローバル社会の中で企業価値を高めながらTDK独自の存在感を発信し続けるためには、創業理念や社是の根底に横たわる歴史や文化といった背景を理解していることが問われているからだと思います。つまり、リベラルアーツの考え方は企業にも求められているのだと私は思うのです。

そして、TDKの思想の源流が農工一体を唱えた斎藤憲三先生の教えとTDKの礎を築いた山崎貞一先生の思想にあるのだとすれば、私たちにかほ市にはTDK発祥の地としての振舞い方があっていいと思います。決して大袈裟ではなく、にかほ市にはTDKが世界の中で活躍し続けるために、できうるバックアップをし続けていかなければならない使命があると思っています。



にかほ市長
市川雄次